



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北海道信用金庫琴似支店建替工事	階数	9
建設地	札幌市西区琴似1条5丁目182の内、183、189	構造	RC造
用途地域	商業地域・準防火地域	平均居住人員	90人
建物用途	事務所集合住宅	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2020年6月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,171 m ²	評価の実施日	2019年5月22日
建築面積	495 m ²	作成者	
延床面積	3,523 m ²	確認日	2019年5月22日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] = 0.88

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合 周辺建物、環境との調和に配慮した。	A 省エネルギー 窓に断熱性のある部材を使用。
B 省資源等 特になし	D 雪処理 雪対策に対してはロードヒーティングを取り入れ敷地外へ雪を出さないように配慮。
C 緑化 敷地内に緑地を配置。	

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	なし	LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4) (仮称)北海道信用金庫琴似支店建替工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)		
スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境					0.40		-	3.2
1 音環境				3.0	0.15	3.4	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.48	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.48	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能			等級T-1以上のサッシを使用している。	3.0	0.93	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			Dr50以上の遮音性能を有している。	3.0	0.07	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.03		-	
2 温熱環境				2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.58	3.0	0.63	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.35	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.06		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.5	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口					-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度			多灯分散照明方式を採用。	3.0	0.15	5.0	0.15	
3.4 照明制御			作業単位で自動照明制御ができる。	5.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.7	0.25	4.0	1.00	3.9
4.1 発生源対策				5.0	0.58	5.0	0.63	
1 化学汚染物質			全体的にF☆☆☆☆を採用。	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				2.0	0.38	2.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.47	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	0.06	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.47	3.0	0.33	
4.3 運用管理				2.0	0.03		-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	3.1
1 機能性				2.4	0.40	3.2	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	0.06	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応			各用途別に100Mbit対応の機器・ケーブルの採用。	4.0	0.06	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	0.89	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.1	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	0.06	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				2.0	0.06	-	-	
3 内装計画				1.0	0.89	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			省資源	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			省資源	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			省資源	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			省資源	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.1	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			熱源種の分散化をしている。	4.8	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			通信手段の多様化を図る。	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.2	0.30	3.8	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり				4.6	0.05	4.6	0.50	
1	階高のゆとり		階高を3.2以上確保した。	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		設備スペースを最小にして空間のプランニングの自由度を高めた。	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.05	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.2	0.90	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		構造部材を痛めることなく配管の更新ができる。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m =0.77	3.3	0.20	-	-	3.3
2	自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.88 -	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用				2.6	0.20	-	-	2.6
集合住宅以外の評価				1.0	0.17	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ		1.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.83	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		省水型機器を使用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-	2.5
2.1	材料使用量の削減	省資源		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.22	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.9	0.20	-	-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		各接着剤は有害物質を含まないものを使用する。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	省エネルギー計算届出書による。	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場46台確保。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	銀行の事業廃棄物と共同住宅のゴミの収集場所を分別し、雪処理は敷地内に確保。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			-	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	1.00	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.0	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)北海道信用金庫琴似支店建替工事				
建物用途	事務所,集合住宅,				
延床面積	3,522.7 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆
	省資源等	★★★☆☆
	緑化	★★★☆☆
	雪処理	★★★★☆

レーダーチャート

★1=スコア(最低点~最高点)20%以下
 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下
 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下
 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下
 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.4 最低点 7.1)		合計	15.7点 / 23.4点
Q1 温熱環境	スコア 0.8 / 1.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 2.6 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア 1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 / 2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.6 / 10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.2 / 4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計	13.3点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.7 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 / 1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 / 5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.2 / 4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計	6.4点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 / 6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計	2.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数
 ■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数